

第1回ゼロエミッションみえ推進本部会議 概要

- 1 開催日：令和4年6月7日（火）13時00分～13時20分
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

●安井戦略企画部長

「第1回ゼロエミッションみえ推進本部会議」を開催する。本日は1回目ということで「ゼロエミッションみえ」プロジェクトについて、方向性や推進方針（仮称）骨子案についてご確認いただく。

それでは、事務局から説明をさせていただきます。

※資料について、事務局（長崎ゼロエミッションプロジェクト総括監）から説明

☆水野県土整備部長

脱炭素社会推進本部とゼロエミッションみえ推進本部との関わりがよく分からないが、こういった違いで設置しているのか。

●長崎ゼロエミッションプロジェクト総括監

脱炭素社会推進本部は県全体の脱炭素について、総合的に推進するというので取り組んでいる。一方ゼロエミッションみえ推進本部は、カーボンニュートラルに向けた取組を進めるということは同じだが、産業と経済の発展に軸足を置いて取組を進めるということが異なる。

●安井戦略企画部長

補足すると、三重県全体の脱炭素を進める中には民生部門等もあるが、ゼロエミッションみえ推進本部は産業部門に軸足を置いた内容を取り扱う。もっと言うと、産業部門の中でも事業者が自らの生産活動の中で使用するCO₂を削減するという取組については、我々の本部の中ですべて扱うというのではなく、そういう取組が経済の活性化や産業振興に結びつくものについて取り扱う。脱炭素社会推進本部の目的はカーボンニュートラルだが、ゼロエミッションみえ推進本部は、カーボンニュートラルと産業振興、経済の活性化を両立させていくのが目的。

☆水野県土整備部長

県有施設の中で、今回港湾に関する取組を取り上げていただいたが、脱炭素に向けた取組については、それ以外も、道路や博物館、図書館、本庁舎などの取組もあるが、それらはどちらで議論していくのか。

●安井戦略企画部長

基本的には脱炭素社会推進本部の中で議論していく。

●長崎ゼロエミッションプロジェクト総括監

県有施設については、脱炭素社会推進本部の中で議論していくが、経済や産業の活性化につながるような取組であれば、ゼロエミッションみえ推進本部で議論していく。具体的中身がどうなっていくはこれからの話であるため、若干幅広に捉えて議論していきたい。

●安井戦略企画部長

脱炭素社会推進本部では、あらゆる脱炭素に向けた取組を包含するが、ゼロエミッション

みえ推進本部では、「ゼロエミッションみえ」プロジェクトとして取り扱うものを決めて、それを推進方針で取りまとめてプロジェクト的に取り組んでいく。推進方針ができたらもう少しクリアになると思うし、そういったとりまとめをしていきたいと考えている。

☆水野県土整備部長

こういったプロジェクトを進める中で、人に言うだけではなく、県自らが何をしているのかを示すことが、企業の皆さんに対してもいいインセンティブになると思うので、ぜひ、この本部の中でも議論していただけるとありがたい。

●安井戦略企画部長

脱炭素社会推進本部や環境生活部とも連携しながら、対外的にもアピールできるよう取り組んでいきたい。

☆野呂雇用経済部長

雇用経済部で具体的な取組を進めるにあたって、有識者を集めた検討会議の4つのWGを持っている。コンビナート、自動車、省エネ、デジタル田園都市について、5月24、27日に1回目を実施、6月に第2回、7月に第3回を実施し、内容を取りまとめていきたい。雇用経済部だけでできる内容については、予算を取って取組を進めていきたいと思っているし、他部局に関係するものも出てきているので、共有させていただきながら進めたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

●安井戦略企画部長

他部局に関連するものは戦略企画部も一緒になって、総合調整を行い、できるだけ実現できるよう取り組んでいきたい。

●安井戦略企画部長

異議等がなければ、今いただいた意見も踏まえながら、この方向で進めていきたい。

(一見知事)

まず、これで「ゼロエミッションみえ」プロジェクトの外骨格が出来上がった。各部においては御協力をいただき、感謝申し上げます。また、これをまとめてくれた長崎総括監、それから戦略企画部の皆さん、よく頑張っていた。

これで形はできたので、このスケジュールに沿って実現に向かって進めていくということが重要。

したがって、各部においても、今、雇用経済部長からも話があったが、今まで以上に実現に向けて、どういうことをやっていくかということが重要であると考えていただきたい。

3点目、結果と成果をなるべく早く出していかないといけないので、なかなか成果が出にくいものもあるとは思いますが、どういう結果があり得るのか、どういう成果があり得るのかということを想定しながら、作業を進めていただくよう、各部、引き続き協力をお願いしたい。